

CLCからしだね書店便り



7 July
2024
no.43



今月のご案内

- ① 連載第7回
「子どもと大人のためのこころの対話—信仰と哲学」
- ② 読書感想本『イエスが読んだ聖書』
- ③ エッセイ『JR 湖西線に乗って』
- ④ 御礼とお知らせ…トークイベントの配信&
からしだね通信インタビューの掲載

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みに来てくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、お好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & カフェ トライアングル
営業時間 11:00-17:00
日曜日と年末年始（※祝日も営業）
定休日 毎月第3木曜日は書店のみ営業

子どもと大人の対話

— 信仰と哲学 —

坂岡 大路

前回までのあらすじ

あるキリスト教パンフレットの文章を読んだタネオくん。そこには「多様性によって真理を蔑ろにしてはならない」と書いてあった。



からしちゃん：私の教会の牧師さんは、ちょっと

ちがう雰囲気だな。

マスター：ほう、どんな雰囲気なの？

からしちゃん：うん、先生がよく言うのは……「私の説教を鵜呑みにしないで、本当にその通りかどうか、どうぞ疑ってください。ぜひ自分でも考えてみてください。」って。

マスター：過激に聞こえるけど、本当に自信を持っていないと言えない台詞だね。

からしちゃん：つまり「ういづつだ」とかと思う。ほんとうのプロの料理人だったら、「おいしいと言ってくれるお客さんしか店に入れません」批評は一切認めません」とは言わないでしょ？その人が真のプロなら、「どうぞ食べてみてください。そして、正直な感想を教えてください」と言っんじゃないかな。それは、その人が「ほんもの」の料理を追求しているからだと思う。

マスター：なるほど。そして、「ほんもの」を真剣に追求しているからこそ、自分が完璧じゃないことを自覚できるんだ

からしちゃん：また難しい言葉が出てきたなあ……。哲学用語ですか？

マスター：ごめん、この言葉だけは許してくれ(笑)「本体」というのは哲学者・竹田青嗣の言葉なんだ。簡単に言うと、「絶対の真理」。そして「本体論」というのは、うんと噛み砕いて言うと、「これは絶対の真理だから」と言っていて、人に自分の考えを押し付けるような論法を言う。

タネオくん：でも真理はありますか？

マスター：うん、ぼくもクリスチャンだからそう信じているよ。でもだからこそ、「自分の視点は不完全で有限な人間の視点であり、神のように真理の全貌を見渡すことはできない」とも信じている。「これはあくまでも自分にとっての真理だと信じられていることなんだ」という自覚を大切にしたいと思うんだ。

タネオくん：なんだかちょっと自信なさげと云うか、生めるようにも聞こえるんですが。

マスター：よく考えてごらん。自分の信仰が今のような形で成立するためには、いくつもの出会いや悲喜こもごもの人生経験が積み重なってきたはずだ。

タネオくん：ぼくで言うと、学校に行かなくなって、居場所がほしくなくて、教会に行ったら居場所と愛を感じられた……とかですか？

マスター：そうそう。「タネオくん」という人格的な関係性

ろうね。「ほんもの」を求める人は、それゆえに己の欠けや不完全さを受け容れている。だから「ほんもの」のプロなら、「異論は認めない」なんて言わない。

タネオくん：でも批判とか異論とか反対はつきりされるのはちょっと……。

マスター：もちろんそうだ。批判の仕方、疑問の出し方には、状況に応じたマナーというものがある。「メッセージ」(私は〇〇と思う)のように「私」を主語にする言い方「もその一つだ。それから、以前に言った「尋ね合い」「確かめ合い」の姿勢も大事だね(連載第二回参照)。ただ、この文章の書き方は、そういう建設的な疑問すら受けつけない書き方になっている。「私が真理だと言つて何が真理だ」「真理だから異論は認めない」という論法だね。やっです。

マスター：もちろん本人に言わせれば「聖書に書いてあるから」というのが根拠なんだろうね。でも、「真理だから正しい」といふ言い方は、実は結構危ない。

タネオくん：何がどう危ないんですか？

マスター：一つは「本体論」になってしまうことだ。



のドラマが、そこにはあるよね。信仰はここから始まらない。そこを無視して、単なる「真理の命題」に信仰を還元するのは、神様の恵みをかえて矮小化することにならないかな？居場所の実感とか、無条件の愛の実感といった体験が、タネオくんの「信仰」の土台になっている。そのようなかけがえのない、パーソナルな出会いの体験があったからこそ、タネオくんは神様を信じている。ここは納得してもらえないじゃないだろうか。

タネオくん：うーん、まあそうですが……。でも、「自分にとって」というと、どうも主観的な感じがするなあ……。

マスター：主観的、というのは別にネガティブな言葉じゃないよ。むしろ、その人のかけがえのないオリジナリティを尊重するということだ。こういう言い方はどうだろ？「一人ひとり異なる神様との出会いの物語がある」と。かけがえのない個人として、替えのきかないその人自身として、神様はあなたに会いに来てくださる。そこを無視する信仰は生きた人格的な関係性ではなく、ただの抽象的な命題だ。

からしちゃん：旧約聖書の登場人物も、みんなそれぞれの人生の文脈で、バラバラな神様との出会い方をしていますよね。

タネオくん：でも、何もかもバラバラだと、集団がまとまらなくなってしまうんじゃないですか？

冷製パスタ はじめました

「追いライス」に
パスタソースをかけて
食べるのもオススメ

追いライス
¥100



夏
限定
9月30日まで

¥700 (税込)

冷製 とろろめんたいパスタ

豆乳ベースの和風だしが決め手の
とろろめんたいスープが
細麺とよく絡み、
たっぷりの海藻とオクラの食感が
癖になる一品

シャッキリ

カフェトライアングルからの
cafe
triangle

夏季限定メニュー情報



▲クリームソーダ ▲「珈琲」フロート

各 ¥470 (税込)



さかおか おおじ
1988年京都市生まれ。北海道大学大学院教育学院臨床心理学講座修士課程修了。札幌市内の児童精神科で臨床心理士として勤務。本質学研究会、哲学プラクティス学会、宗教倫理学会、キリスト教教育学会等の学術誌に論文掲載。札幌市若者支援施設youth+（ユースプラス）で「ワカモノ」哲学カフェを主宰するなど、オンラインや地域で子ども・若者と共に哲学対話を行う活動に取り組む。

作者よりひびくこと
今回のポイントをまとめます。

- ①「ほんもの」を求めるからこそ、人は他者からの批評や疑問に耳を開く。
- ②「ほんもの」を求める人は、そのためにこそ自分の欠けや不完全さを受け容れる。
- ③「これは絶対の真理だから」という理由で人に自分の考えを強制する論法に要注意。その論法の隠れた主語に気をつけよう。（それは「その人が」そう信じている、ということ。）
- ④どんな信仰も個別的な成立条件を持っている。「その人と神様」というパーソナルな関係性の文脈（ドラマ）があり、信仰はそこから始まらない。
- ⑤そこを無視して、単なる「真理の命題」に信仰を還元するのは神との生きた人格的関係性を捨象すること。

今回のマスターの議論には、キルケゴールという哲学者の知見が「隠し味」として盛り込まれています。若きキルケゴールは、次のような味わいある言葉を残しています。

私にとって真理であるような真理を発見し、私がそのために生き、そして死にたいと思うようなイデーを発見することが必要なのだ。いわゆる客観的真理などを探し出してみたところで、それが私に何の役に立つだろう。……「それが私自身と私の生活にとってそれ以上の深い意味をもたないとしたら、それが私に何の役に立つだろう。」（『世界の名著 キルケゴール』より）

それが「私自身の人生にとって」意味あるものにならないければ「真理」は生きたものにならない……この意見には否定しがたい説得力があります。どんな「真理」の確信も、「私にとって」の領域からしか始まりえないからです。

しかし、この思想には欠けているところがあります。「私にとって」を「私たちに」として「へと展開させていくための道筋を、キルケゴールは明らかにしていません。この点をどう考えていけばいいのでしょうか。みなさんも考えてみてください。



『イエスが読んだ聖書』

(フィリップ・ヤンシー著・山下章子訳いのちのこほ社、2000年5月発売)

吉川 未来

書店顧客さまより感想を
いただいたものを掲載し
ました

恥ずかしい話だが、私は長い間、旧約聖書を真剣に読むのを避けていた。

福音書のイエス様は好きだし、使徒の教えも理解出来るような気がする。だが、古代の砂漠の民が描いた旧約聖書の世界観は、現代の自分とあまりにもかけ離れているように思え、馴染みのあるものとして読むことが出来なかったのだ。他の人に「私はクリスチャンです」と言うとき、その「クリスチャン」のイメージは主に新約聖書に基づいたものであり、非常に曖昧なものでしかなかった。柔和で謙遜であり、敬虔に神様と隣人に仕えようとする人々―それが私の抱いていたクリスチャンのイメージだった。

しかし私はある時、聖書を読むことに対して息苦しさを覚えるようになった。リアルな現実社会で生きていくうえで、山上の垂訓やパウロの高尚な教えを、どう生活に適用したらいいのだろう。「クリスチャンの目指そうとしている生き方は、あまりにも現実からかけ離れているのではないか。クリスチャンの理想は、私にはあまりにも高すぎる。私は「立派な」クリスチャンにはなれそうもない」、そう感じるようになってしまった。 そんな時、教会の書棚でふと目に留まったのが、『イエスが読んだ聖書』とい

達と同じような世界が描かれていることに気付いたからだった。「私たちは、シェイクスピアの戯曲の中に自分を見出すのである。それと同じプロセスを、旧約聖書に向かった時に経験した。(中略)

旧約聖書は、他の物によっても―新約聖書によってさえと言わなければならぬ―満たされることが無かった心の飢えを満たしてくれた。神と歩む生活について教えてくれた、神との生活がどうあるべきかでなく、実際どうであるかを教えてくれたのだ」(24ページより)と、著者は書いている。

旧約聖書に描かれている世界は、決して遠い世界の物語などではなく、私たちの世界を映したものだ。そのことを思った時、私は次第に旧約聖書に興味を持つようになっていった。

その後、著者は本の中で、ヨブ記や申命記、伝道者の書、預言書などを通して、聖書の人物がどのように神様と歩んだかについて描いていた。旧約聖書の登場人物は、決して「敬虔に」神様に従った人物ばかりではなく、皆私たちと同じような疑い・嘆き・絶望を抱えながら、体当たりで神様と向き合った人物ばかりだった。私達と同じように生々しい感情を持ち、弱さを抱える人間ばかりだったのだ。この本を読んでその事を改めて思い起こしたとき、大きな慰めが与えられた。神様は人間の疑い・迷いをも、そのままに受け止めてくださるお方なのだ！神様は人間を真剣に受け止め、人間と対話し、人間に耳を傾けて下さる。決して違い所

う本だった。それは旧約聖書について書かれていた本であり、聖書に親しみをもてない読者のために書かれたものだった。「旧約聖書は苦勞して読む価値があるか」というのが、本書の第一章のタイトルだった。

この本ではまず、著者であるフィリップ・ヤンシーが、いかに旧約聖書を避けるのをやめ、再び読み始めたかについて書かれている。著者はある時、編集者として『スチュエーデントバイブル』を出版するために旧約聖書を読まざるを得ない状況になった。しかし、始めは義務的に読み始めた旧約聖書だったが、読み進めていくうちに、聖書そのものか愛すべきものにならなくなっていったのだという。

著者は、この読書経験がウィリアム・シェイクスピアを読んだ時の経験と一致すると語っている。著者はある時、一年をかけてシェイクスピアの戯曲を全て読む決意をした。始めのうちは、古い単語を調べたりするやっかいな作業に取り組まなくてはいけなかった。しかし言葉やリズムに慣れていくうちに、著者はその世界に夢中になっていった。それはシェイクスピアの作品の中にはリアルな人間性が描かれており、現代に生きる自分から傍観しているようなお方ではない。

著者は本書の第一章で、次のように書いている。「私たちは旧約聖書を読むとき、イエスが読み、使われた聖書を読むのである。これらはイエスの祈った祈りであり、イエスの覚えた詩であり、イエスの歌った歌であり、イエスが子ども時代に寝る前に聞いた話であり、イエスが熟考した預言である。彼はユダヤ教の聖典の『二点一画でも』尊んでおられた。旧約聖書を理解すればするほどイエスのことがよく理解出来る」(30ページより)

イエスのことをもっと知るためにも、旧約聖書の理解をもっと深めたい。それが今の私の願いである。

本書は非常に洞察に富み、読み応えのある一冊だ。もし私と同じように旧約聖書を読むことに抵抗を覚えている方がいれば、ぜひお薦めの作品である。

(※追記…この原稿を書いた後に、『イエスが読んだ聖書』はすでに版元品切となつており、私を知りました。私はこの本を原著で読んだことがあるのですが、本文の内容が素晴らしいのみならず、翻訳者の山下章子師が美しい日本語で非常に素晴らしい訳をなさっているので、品切となつた事実を大変残念に思いました。このようにすぐ品切となつては、翻訳家の方の苦勞も報われないのでは…と思わずにはいられません。ぜひ、再販を希望します。)

JR湖西線に乗って…

その1 「偉大な琵琶湖…」

CLCからしだね書店を経営するミッションからしだねは、京都にありながら、滋賀県大津市民が職員の半数を占めている。大津は京都から近く、通勤通学にも便利なベッドタウン（県庁所在地なのに…）なので、県外からの移住者も多い。かく言う私もその一人のだが、この4月からJR湖西線に乗って、通勤している。「JR湖西線」の「湖」は言わずもがなの滋賀県民の誇り、日本最大で最古の湖「琵琶湖」のことである。琵琶湖を眺めながら、琵琶湖の西側を走る電車なので、湖西線。ついでに言つと琵琶湖の東側を走るのは「琵琶湖線」で、そちらがメインラインっぽいネーミングなのが、ちょっと悲しい湖西側の住民である。

ちなみに、滋賀県では、琵琶湖を「はさんで」「湖北」「湖南」「湖東」「湖西」というふうに切り分けて呼ぶ。だが、滋賀県南東の端っこ^{（1）}の地域などは、琵琶湖からものすごく離れており、琵琶湖からの距離でいうなら、京都市内の方がむしろちやちや近い。なんなら京都市内も「湖西」あるいは「湖南」と呼んではいかがだろうかと思っ

り、交通手段として船が用いられてきた近江の国、滋賀は、立派な海無し県なので、琵琶湖のことを「淡海^{うみ}」と呼ぶ。

しかし、様々な面で京都無しでは成り立たないことを、百も承知の滋賀県民。たとえば琵琶湖の周りを走っているJR湖西線とJR琵琶湖線をつなぐのは、京都のJR山科駅なので、滋賀県民はJRで湖西と湖東を行き来するとき、いったん山をくぐって京都の山科まで寄り道しなければならぬ。そして電車を乗り換えてまた山をくぐって滋賀県に戻る。しかし山科は山科で、京都市民から「山科は、むしろ滋賀県ちゃうん？」と疎外されている^{（2）}。あるにはある。

遠路はるばる京都観光に来る人達には、「大津のホテルで泊まったら、無茶苦茶お得ですよ」と言いたい。JR琵琶湖線大津駅も、JR湖西線大津駅も、京都駅からわずか2駅10分程度。琵琶湖の見えるいいホテルがたくさんある。「ちやちやした京都市内に泊まるより、大津でうみの見えるオーシャンビューの夜景を楽しんではいかが？

最後になりましたが、CLCからしだね書店「利用のお客様、教会様は、やはり京都と滋賀が半々です。いつもお世話になり、ありがとうございます。」

ガタンゴトン



ガタンゴトン

CLCからしだね書店
書店員M.M

ガタンゴトン

離感である。滋賀県に引越してきたとき、「琵琶湖一斉清掃の日」なるものがあるのに驚いた。7月の指定された日曜早朝に、みんなで屋外清掃をする。琵琶湖から遠く離れた住民も「琵琶湖一斉清掃の日」のくくりで、近所の清掃に励む。きっとそのネーミングが、琵琶湖の美しさを保つための一助になっているに違いない。

「琵琶湖しかない」と勘違いされている滋賀県であるが、琵琶湖を自指して移住してきた私に言わせれば、「この美しい琵琶湖があれば他に何がいますか？」と言い返したいくらいである。しかも滋賀県は、歴史の街でもある。国指定の名勝（特別名勝含む）の数が京都に次いで全国2位、国指定の重要文化財（国宝含む）建物数は京都・奈良に次いで全国3位、国選定の重要な景観件数は熊本に次いで全国2位。ちなみに同列2位が長崎、3位は高知である。

「これでも、「琵琶湖しかない」と言いますか？」

このあいだNHK大河ドラマ「光る君へ」で、まひろ（紫式部）が京から越前に行くのに、琵琶湖を小さい舟でこぎこぎして、たいへんびっくりした。陸路を行くより、安全で楽だったのだろうか。このように、古来よ

その2 「湖西線の女子高生」

さて、そんな大津市民の私が、ある日の朝、いつものように湖西線に乗車したところ、4人掛けのボックス席に座った女子高生が、左手に鏡、右手にマスクラをもって、真剣に自分の顔にメイクを施していた。彼女の隣と前に座っているのは、朝からややお疲れ気味のサラリーマン風男性3名。そのボックス席を囲って見下ろすように立つ、私を含めた大勢の大人たち。今の時代、化粧OKな高校があると聞いてはいたが、「十代は、素顔の美しさが一番、今だけ限定の美しい素肌を塗りたくるのはもったいない」という教育を受けてきた十年前女子高生だった私は、何度も何度もマスクラのブラシでまつ毛をかき上げる彼女の真剣な眼差しに、「なるほど〜」と思った。何が「なるほど〜」なのか自分でもわからないままに、「なるほど〜」と思った。

彼女を取り囲む大人たちは、彼女をまざまざと見はしないが、でも気になってチラチラ見してしまうようになった。私はそんな大人たちを見ながら、再度「なるほど〜」と思った。彼女は、私が乗り込んだ駅から私が降車した山科駅までの数駅間、ずっと周囲のチラ見を遮断して、マスクラに集中していた。

電車を降りてから、私は「なるほど〜」の理由を考えぬ。

①揺れる車内で、マスクラ。若いからできる芸当。たとえ揺れても、繊細な施術をやつてのけてやるぞーという、若い自信と力と気合。メイクの時間はJR車内で確保するとして、ぎりぎりまで家で寝ていたい!のも若さの証拠。すい。

②入念に、特に人間の顔を印象つける「眼」の周囲に時間をかけているのは、彼女にとっての「本番」「戦闘」に備えることなんだろうな。どこからが彼女の「戦場」になるのかは知らないが、彼女の「戦場」は、きつとせつたに気の抜けないたいへんな場所なんだろうな。

③そんな彼女は、電車内の人間を、もはや「人間」として認識していないようだ。彼女を取り囲む大人たちは、壁紙の一部でしかなくて。特に、彼女と同じボックス席に座るサラリーマン風男性三名は、いちばん分厚い壁紙と化している。人間ではなく。この男性がたは、どんな



気持ちだろう。薄い壁紙の一部になった私も、ちょっとさびしい。

④ただ、彼女にとって、JR湖西線の電車の中は、戦闘前の安心できる、気の許せる場所なんだろうなとも思っ。⑤たぶん、自分の娘が電車内でメイクしていると知ったなら、「みっともないからやめなさい」と言ってしまう「常識人」の私、なにになぜ、じかでみる彼女に対しては「いいよ、私たちは壁紙になってあげるよ」と思っただろう??

自分の価値観や常識は、「こっやって」「じか」でふれる目の前の人によってひっくり返される。そして、ちょっと優しくなれる。だから、できればこの女子高生にも時には早起きしてメイクをすませて、電車の中にいる一人ひとりを見渡してほしいなと思う。毎日でなくてもよ。いから。そうしたり、少し楽になれるかもしれないよ。

御礼とお知らせ



★7月6日のトークイベント「私は、日本社会をさまよう難民たちの「隣人」であるか?」は、少人数ではありますが、中身の濃い、良いディスカッションの時となりました。◆ミッションからしだねが年に2回発行している「からしだね通信」の2024年12月号で、詳しくお知らせする予定です。それにしても、ビスカルト篤子さんのお話は迫力がありました。「億人の難民を助けてください」と言われても、できません。でも

目の前にいる一人の人から「篤子さん、助けて」と名指しで言われたら、やるしかない。そのために行えることは何でもする。名指ししてきた一人を助けることは、その後ろにいるたくさんの方々の難民たちを助けることにつながっていくのです」というお話に、福祉の仕事しながら無力感に落ち込んでしまいがちになるからしだね職員も大いに力をいただきました。トークイベントの前半部分は、YouTubeで配信する予定です。

★2月に行った沼田和也牧師のトークイベント「弱音を吐く練習」も、前半部分をYouTubeに上げています。ぜひ、「ご覧ください」。(QRコード)



◆からしだね通信2024年7月号では「外国籍の人達が受けることができる社会サービス」を取り上げ、障がいのある外国籍の子どもたちと親御さんを受け入れている「児童発達支援事業所 かばくんの家」のインタビュー記事を掲載しています。(QRコード)



古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただけるとありがたいです。
(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により
当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みの
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は
受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025
Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

京都聖徒教会様、美馬里彩様、東近江キリスト教会様、松本勝様 比呂子様、杉浦孝夫様、
多田出佳代子様、匿名様 (順不同)

6月の古書の収益は32,254円でした。

【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】
献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、
お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆暑中お見舞い申し上げます。年々暑くなる夏本番。皆様、いかがお過ごしでしょうか？◆このたびの「読書感想本」は現在、品切れの本を取り上げています。でも、感想文を読んだだけでも、「旧約聖書も、ちょっと気を入れて読んでみたい」という気になりませんか？◆アメリカではトランプさんが狙撃されて軽傷を負ったというニュースが…。この浅はかで知恵のない暴挙は、なぜ起きてしまったのか…。残念でなりません。民主主義を守るためにも、様々な考えに触れて、よくよく考える頭を持ちたいものです。そのためにも、本を読むことは大事だと思います。経営が厳しい全国の書店の皆様、がんばりましょう。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店便りの
バックナンバーはこちらから

